

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 すみれの里)

事業所番号	0270400229		
法人名	社会福祉法人 すみれ会		
事業所名	すみれの里		
所在地	黒石市馬場尻南61-5		
自己評価作成日	平成23年9月20日	評価結果市町村受理日	平成24年2月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・温泉をひいており、いつでも入浴できる。また、庭には足湯もあり、いつでも利用出来る。
- ・家庭的な雰囲気を保ち、一人ひとりのペースで自由な生活を送っていただけるように支援している。
- ・趣味活動や役割活動を通じて、利用者全員が生きがいをもち、生き生きと生活している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成23年11月15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家庭的な雰囲気の中、利用者職員と一緒に食事の準備を楽しんだり、定期的に外部の方を招いて生け花をする等、日常生活や趣味活動等を積極的に取り入れて活動している。職員は、利用者全員がそれぞれ役割を持ちながら、生き生きと生活できるように常に気を配り、支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

※複数ユニットがある場合、外部評価は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自 己 部	項 目	自己評価		外部評価	
		実践状況		次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの役割を理解しており、理念に反映させている。	管理者と職員は理念を共有できるように互いに働きかけを行っており、地域密着型サービスの役割を理解している。自由な生活をモットーに、地域との交流も行える環境を整えるといったホーム独自の理念を形成し、日々のケアの場面で実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の運動会、夏祭り、文化祭に参加したり、町内の草取りや側溝のドブさらいをし、地域交流を図っている。	ホームの敷地内に観音様の仏像を奉り、毎月開催する観音様祭りに近隣住民の参加を促している他、納涼祭等のその他のホーム行事にも参加を呼び掛けている。また、地区の学校行事等へも積極的に参加しており、定期的に地域との親睦を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者のプライバシーに配慮した上で、実習生を受け入れたり、見学者や実習生に対して認知症者への支援方法を説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催しており、報告や情報交換、自己評価及び外部評価の結果を報告している。	2ヶ月に一回、運営推進会議を開催しており、ほとんどの委員が参加している。また、自己評価及び外部評価等を報告して、出された意見を今後の対応に活かしている他、会議終了後には座談会を設け、気軽に意見を出していただき、ホーム運営等に役立てている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域密着型サービス事業者連絡会に参加し、協力関係を築いている。また、評価結果を提出し、連携を図りながら質の向上に取り組んでいる。	運営推進会議に行政の担当者が毎回参加しており、その都度連絡を取り合っている他、広報誌を毎月配布している。また、適宜電話連絡をする等、日常的に連携が図れるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	園内研修を通じて、身体拘束の内容や弊害について理解しており、身体拘束を行っていない。	身体拘束の内容や弊害について、研修会等を通じて全職員が理解しており、玄関は施錠することなく、センサーを取り付ける等して工夫している。外出傾向がある利用者については、レクリエーション等で日々の生活を充実させ、気持ちが逸れないように取り組んでいる他、職員が付き添う等の支援をしている。また、やむを得ず拘束を行う場合に備え、家族の同意を得て記録に残す体制を整えている。		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	園内研修を通じて、虐待について理解を深めており、虐待を行わないケアを心掛けている。			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	内部研修で日常生活自立支援事業や成年後見制度についての理解を深めている。			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	契約時には、重要事項説明書を用いて説明を行い、同意を得ている。また、本人や家族から不安や疑問点を聞き出し、信頼関係を築いている。			
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	意見箱を用意したり、会話の中で意見や要望を聞き出している。	広報誌にご意見欄を掲載したり、玄関に苦情箱を設置する等、意見を把握できるように取り組んでいる他、管理者や職員は気軽に話せる雰囲気作りに努めている。また、出された意見はホーム内の他、推進会議等で検討される体制も確立されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングの他、毎月の運営会議やケース会議を行い、話し合いの場を設けている。	管理者はホーム内の会議等を活用し、職員から分け隔てなく意見を聞くように取り組んでいる。また、出された意見等については、管理者が法人内の上司に伝え、運営やケアに反映されるように取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	健康診断や腰痛検査を定期的実施している。また、業務の多忙さ、人手不足等、労働環境についても改善に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や園内研修を通して、職員の質の確保、向上に向けた育成を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	黒石市地域密着型サービス事業者連絡会を通して、同業者との交流を図っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接調査時、本人の希望等を聞き出し、ケアプランに反映させている。また、安心できる雰囲気作りを心掛け、信頼関係を築くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接調査時、家族の希望等を聞き出し、家族の思いを受容し、信頼関係を築くよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人と家族のニーズに対して、何が必要かを見極めて柔軟に対応し、実行に移している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活において、それぞれ役割活動を持ち、生き生きとした生活を送っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いを受け止め、一緒に入居者を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある場所へドライブに出掛けたり、電話や手紙での連絡を取り持つ等の支援を行っている。	ドライブ等で外出した際に、利用者の行きつけの場所に行く等の配慮をしている。また、友人等も面談に訪れており、気軽に交流ができるように働きかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	役割活動やいろいろな作業を通して、入居者同士が共に協力し、支え合っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も相談や支援に応じる姿勢を示している。		

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族から希望や意向等を聞き出し、把握するよう努めている。	常に全職員が気配りし、利用者の視点に立って希望や意向等を把握するように努めている。また、家族が来所した際にも聞き取りをする等して把握に努め、今後の対応に役立てている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴等について、本人や家族から情報収集を行ったり、回想法を通じてライフスタイルを把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の心身状態や生活リズムを把握しており、一人ひとりの能力にあった活動や作業を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と家族から意向を聞いた上で、職員間で十分話し合い、介護計画を作成している。	電話連絡や来所時等を通じて、家族の希望や意見を聞いて把握に努めている他、利用者の状態や能力を勘案し、気付いた点や要望等を確認しながら、全職員で計画を作成している。また、定期的な見直しの他に、利用者の状況等の変化に応じて、随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、ケース記録や看護記録等で情報を共有し、モニタリングを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人及び家族の状況や、要望に応じて、今までの暮らしが継続できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	併設施設と合わせ、防災訓練時に消防署の協力を仰いだり、警察による交通安全指導や地域の小学校との交流も図られている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回、協力医療機関の精神科医に訪問していただいているが、希望により、かかりつけの医療機関も受診している。	利用者や家族の希望により、自費でのタクシー利用や家族の送迎等で、協力医以外の受診もできる体制を整えている。また、週1回は協力医の往診を受けている他、関係者へ情報提供を行う等、適切に医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、日常の健康管理を行っている。介護職員も、入居者の身体状況に変化が見られた時は報告し、連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、面会時や電話等で入院状況を聞き出し、家族を含めて、退院に向けた情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、介護及び看取り介護の対応について説明し、同意を得ている。重度化が予想される場合は早期に家族と話し合い、併設の特養に入所していただいている。	看取りに関する指針を作成し、入居時には十分な説明を行い、同意を得ている。また、家族の希望と利用者の状態を把握し、医療機関と連携を図る他、併設の特養との話し合いのもとで、施設に移動できるように取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成しており、応急手当や初期対応については、看護職員から指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間を想定した避難訓練を毎月行っている。また、総合防災訓練の時は消防署や地域の方の協力を得ている。	月1回はホーム独自の避難訓練を行っている他、年2回、総合と夜間を想定した訓練を実施している。その際には、消防署や地域住民からも協力を得て、連携がとれるように取り組んでいる。また、災害時に備え、定期的な設備点検を行っている他、併設の特養にも物品等の用意をしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重した言葉掛けや、さり気ない介助を行っている。	職員は利用者一人ひとりの訴え等に耳を傾け、人格を尊重し、差別的な声掛けをしないよう取り組んでいる。また、管理者は守秘義務等について職員全員に徹底しており、プライバシーにも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行事や活動への参加、決め事を常に入居者と話し合い、自己決定を促す場面作りを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースに合わせて、自由に生活していただけるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出する際は、入居者と一緒に衣服を選んだり、化粧を行い、おしゃれができるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立の他に、入居者が買い物にて好きな物を買って食べる事ができるように支援している。また、食事準備や片付けを一緒に行っている。	これまでの利用者の習慣に配慮し、必要以上の会話を控え、落ち着いた雰囲気のもと、職員も同席しながら食事をしている。また、利用者と一緒に調理の準備や片付け等を行う等の取り組みがされている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士がバランスの良い食事を献立に取り入れている。入居者の一日の食事や水分摂取量を把握しており、個々の状態に応じて、食べやすいように工夫している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の力量に応じて、一緒に口腔ケアを行っている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄記録で排泄パターンを把握し、トイレ誘導により排泄の自立を支援している。	ホームでは常に周囲に対する目配りや気配りが徹底されており、個人記録の作成によって排泄時間等を把握し、自立を支援するための取り組みを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や適度な運動によって自然排便を促しているが、便秘時は個々に合わせた量と頻度で下剤を使用している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日一人ひとりの希望に合わせて、入浴の支援を行っている。	入浴可能な時間帯は概ね14時から17時頃までだが、毎日実施しており、利用者の体調の変化や好みに応じ、柔軟に対応するように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、適度な運動や活動を取り入れ、安眠に繋がるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の種類、用量は看護記録に記載しており、周知している。薬の変更時は状態観察に努め、記録に残している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や趣味を把握しており、趣味活動や役割活動に活かしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物やドライブを行い、気分転換を図っている。また、家族の協力を得て外出する機会を作り、支援している。	外出内容により、家族等の協力も得て実施できるように取り組んでいる他、広い敷地内の散歩を日課としている。また、ホームや法人で行っている行事に参加したり、利用者の体調を考慮した支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は事務室で預かっており、必要な場合は本人へ渡している。また、自分で管理している方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>プライバシーに配慮し、自ら電話で話ができるよう支援したり、手紙を出す等の支援をしている。</p>			
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家庭的な雰囲気を保ち、共用の空間は不快な音・光がないように注意している。玄関、廊下には花を飾り、季節感を取り入れている。</p>	<p>震災以降、節電しているが、特に暗さを感じることなく、自然な明るさが確保されている。温・湿度計を設置している他、必要時には加湿器を使用する等、適切な空調を保てるように取り組んでいる。また、季節に応じた生け花を飾る等、利用者が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>居室で自由に過ごしたり、リビングで入居者同士が思い思いに過ごしている。</p>			
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居前から使用している馴染みの物を持ってきてもらうように、家族に働きかけて協力を得ている。</p>	<p>本人及び家族の意向を踏まえ、できるだけ馴染みの物を持ち込んでもらえるように支援している。居室には位牌や仏壇等が持ち込まれており、本人の意向に配慮した居室作りに取り組んでいる。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>手すり等の福祉用具を設置したり、各部屋には目印となるプレートを取り付けている。また、入居者の身体状況の変化に応じて、その都度環境改善を行っている。</p>			